

## JAFICにおけるスマート水産業の取組と衛星データの活用



齋藤 克弥（一般社団法人漁業情報サービスセンター システム企画部 部長）

JAFICは1970年代から衛星データ（海面水温）の漁業利用の技術開発を進めてきました。1980年代以降、海色や海面高度など多種多様な衛星データが利用可能となっています。利用の幅も広がっており、近年は沖合漁業から沿岸漁業や養殖業にも広がりを見せています。また近年は水産業のスマート化が技術開発の大きな潮流となっています。スマート化のポイントはDXとデータ連携です。本講演ではスマート水産業における衛星データの活用について講演します。

## JAXAにおける衛星海洋観測の取組とGCOMデータの活用

田中 一広（JAXA GCOMプロジェクトチーム プロジェクトマネージャ）

JAXAは1990年代より人工衛星観測データの水産利用について関係機関と協力して検討を進めてまいりました。その中心となる地球環境変動観測ミッション（Global Change Observation Mission : GCOM）は、電波センサ（マイクロ波放射計）を搭載する「しずく」と、光学センサ（中分解能広域光学イメージャ）を搭載する「しきさい」の2つの衛星から構成されます。本講演では、「しずく」と「しきさい」による海洋データ観測の現状と水産利用について講演します。



## 千葉県の水産分野における人工衛星情報の利用とスマート化への取組

加藤 正人（千葉県水産総合研究センター資源研究室 主任上席研究員）



三方を海に囲まれた千葉県では、海域特性に応じて様々な漁業が営まれています。黒潮の影響を受ける太平洋沿岸は、日々の海況変化が大きいことから、操業支援のため、関係機関とともに、衛星データを活用した海面水温および黒潮流路の現況を示す海況図を作成、情報提供しています。また、スマート機器による漁業者の海洋観測体制を構築するとともに、海況予測に取り組み始めました。本講演ではこれらの取り組みについて講演します。

## 有明海湾奥部のノリ養殖における衛星データ活用の可能性

三根 崇幸（佐賀県農林水産部水産課 玄海創生・栽培資源担当係長）

佐賀県有明海のノリ養殖は、生産枚数・金額とともに日本一であるものの、ノリの色落ち（栄養不足による色調低下）などの課題を抱えています。このため、佐賀県では、色落ちの原因となる植物プランクトン（植物PL）の動向を把握するため、船舶による高頻度な水質調査を行っていますが、広大な漁場の隅々まで調べることは困難です。本講演では、有明海湾奥部のノリ養殖において、植物PLの広域的な把握を目的とした衛星データの活用の可能性について述べます。



## いか釣り漁業のスマート化と衛星利用

中津 達也（全国いか釣り漁業協会 会長）



いか釣り漁業では、スルメイカ資源の減少により、漁場探査の重要性が増加しています。このため、人工衛星を使った漁場予測システムを使うことで、漁場探査の効率化が図られています。また、効率的な操業や安全な航海を行うためには沖合で多様な情報を得る必要がありますが、漁業情報サービスセンターのエビスくんを導入したことで簡単に得られるようになりました。更には、国が進める水産業のスマート化への貢献も期待されています。

# パネルディスカッション

漁業や養殖業の発展のためのスマート水産業における、  
衛星データの活用と現場情報との連携について議論します。

## コーディネーター



石坂 丞二 (名古屋大学 宇宙地球環境研究所 国際連携研究センター 教授)

1981年筑波大学第二学群生物学類卒業。1983年筑波大学大学院環境科学研究科修了、1989年テキサスA&M大学海洋学部Ph.D、同年工業技術院公害資源研究所、1991年同院資源環境技術総合研究所。1998年長崎大学水産学部教授、2009年名古屋大学地球水循環研究センター教授、2015年同大学宇宙地球環境研究所教授。衛星データを利用した植物プランクトンの変動、基礎生産、赤潮、環境モニタに関する研究。



## パネラー

金子 貴臣

(水産庁 増殖推進部 研究指導課 課長補佐)

2010年 東京大学大学院農学生命科学研究科修了(農学博士)。2010年 独立行政法人水産総合研究センター 中央水産研究所 任期付研究員、2013年 同研究所 研究員。2019年 水産庁に出向(課長補佐)スマート水産業の推進を担当。



山尾 理

(海上保安庁 海洋情報部 海洋空間情報室長)

2003年海上保安庁入庁。国際水路機関専門職や第九管区海上保安本部海洋情報部長等として、自律型海洋観測装置を用いたリアルタイム海象情報の取得や、海図を始めとした海洋情報提供業務に広く携わる。現在、海洋空間情報室長として海洋状況表示システム「海しる」の開発・運用を担う。



水上 陽介

(オーシャンソリューションテクノロジー株式会社 代表取締役)

2017年会社設立。現在、代表取締役。漁業者との対話が最も重要との考えのもと、企業理念に基づき、現場だけに注力するのではなく業界関係者全てに対し中立のスタンスを取っている。「地域コミュニティ」の堅持と発展を大切に、包摂的なイノベーションを未来の水産業のあるべき姿と捉え、実現すべく邁進している。



荒井 頼子

(一般財団法人リモート・センシング技術センター  
ソリューション事業第一部 事業開拓課長代理)

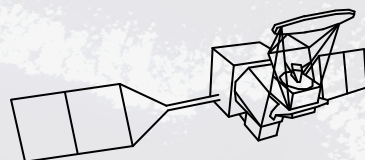
1997年北海道大学大学院水産学研究科博士前期課程修了。2005年総合研究大学院大学博士課程修了・理学博士。JAXA地球観測衛星の校正・検証・データ提供に従事、現在は政府等の衛星利用実証における水産利用に向けた解析、衛星データによる海面水温・藻場・干潟・衛星推定水深等のソリューション提供を担う。



加藤 正人, 中津 達也, 三根 崇幸, 斎藤 克弥, 田中 一広: パネラーとしてもご登壇

視聴申込は特設サイトから⇒

申し込み締め切り:  
12月15日 23:59



\*ご登壇, 五十音順